

☆年間第18主日(8月2日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (イザヤの預言 55章1～3節)

主は言われる。

渇きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。

銀を持たない者も来るがよい。

穀物を求めて、食べよ。

来て、銀を払うことなく穀物を求め

価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。

なぜ、糧にならぬもののために銀を量って払い

飢えを満たさぬもののために労するのか。

わたしに聞き従えば

良いものを食べることができる。

あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。

耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。

聞き従って、魂に命を得よ。

わたしはあなたたちととこしえの契約を結ぶ。

ダビデに約束した真実の慈しみのゆえに。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 8章35, 37～38節)

皆さん、だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。

しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

福音朗読 (マタイによる福音書 14章 13～21節)

イエスは洗礼者ヨハネが死んだことを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。しかし、群衆はそのことを聞き、方々の町から歩いて後を追った。イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた。夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買って行くでしょう。」イエスは言われた。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」弟子たちは言った。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」イエスは、「それをここに持って来なさい」と言い、群衆には草の上に座るようにお命じになった。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。食べた人は、女と子供を別にして、男が五千人ほどであった。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

ようやく太陽の季節がやってきました。これからは暑さが募りますので、熱中症にご注意ください。暑さの中でマスクをするのは大変ですね。でも、東京を含め全国でコロナの感染者が急増しています。外出だけでなく、ご家庭内においても注意が必要です。今のところ大司教様からのメッセージはありませんが、お近くで感染者が出ている方は、今はミサの出席義務は免除されていますので、お休みされることもお勧めいたします。

さて、今日の主日のミサの朗読ですが、全体として、父である神が私たち人類のことを休むことなく見守り配慮されていることが現わされています。父である神は人類の創造の目的である「永遠に神とともに生きる人類」のために、今もいつも配慮されているのです

第一朗読 (イザヤの預言 55章1～3節)

今も昔も人間にとって必要なことは毎日の糧を得ることです。昔は今のよう、食べ物を大量に保存することはむづかしかつたので、いつもひもじい生活だったと思います。ですから旧約聖書にしても新約聖書にしても食べ物をもって配慮する神が描かれています。そして、飢えを満たさぬもののためになぜ無駄なこと、役に立たないことに気を使っているのかと問われるのです。「あなたが本当に生きるために、私の言葉を、私の与える食べ物を得よ」、と呼び掛けておられるのです。主の言葉に聞き従うことこそ、真の食べ物であるのです。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 8章35, 37～38節)

今日の朗読箇所は使徒パウロの確信が述べられています。「誰も、どんなことも私をイエスから引き離すことはできない」という確信です。これは言葉だけの言い募りではなくその生涯を通してパウロが確信した真実なのです。パウロは多くの反対者と戦い、鞭うたれ、自然災害、海の難などに見舞われましたが、この確信は決して揺るぎませんでした。パウロは私たちに伝えられた信仰に最後まで留まるように私たちに励ましています。

福音朗読 (マタイによる福音書 14章13～21節)

マタイは旧約聖書で神である主がその民を食物をもって養われ、配慮されていたことを思い出させるかのように、イエスがパンを増やされたエピソードを語ります。五つのパンと二匹の魚を分けて五千人以上の群衆に与え、飢えを満たされます。数の比較からして大変な違いですが、これは単に食べ物だけの話ではなく、「イエスの語られるみ言葉こそが多くの人の飢え、心の渇きを満たすことができるのだ」とマタイは言いたかったのだと思います。食べ物は一度食べてしまうと何にも残らず、また食べなければなりません、イエスの与える食べ物、イエスの与える飲み物は尽きることがないのです。

そしてまた、マタイは次のようにイエスに語らせます。「行かせることはない。あなた方が彼らに食べ物を与えなさい」と。これは私たちへのメッセージです。私たちイエスを知り信じる者が多くの人々にイエスの言葉を与えるようにというメッセージです。現在、地球の多くの地域で貧困のために多くの人々が苦しみ、飢え死にしそうな状態が続いています。私たちはこの状態を何もしないで、のほほんとして放置することはイエスの言葉からして許されていません。今すぐ行動に移らなければなりません。同様に、コロナの時代にあって、人との接触がむづかしい状態ですが、それを理由にイエスの言葉を多くの人々に届ける役割を放棄してはいけません。出会う人に一言でもいいですから、イエスの言葉を伝えましょう。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光